

大通公園のあり方

令和7年(2025年)3月 札幌市



| | |
|------------------------|-----|
| 1. 背景と目的 | |
| 1-1 はじめに | P1 |
| 1-2 公園の概要 | P1 |
| 1-3 位置 | P1 |
| 2. 検討にあたっての与条件整理 | |
| 2-1 大通公園のあり方の検討経緯 | P2 |
| 2-2 上位計画における位置づけ | P2 |
| 2-3 社会環境の変化 | P3 |
| 2-4 大通公園の変遷 | P4 |
| 3. 大通公園の現状把握と方向性 | |
| 3-1 大通公園の魅力と機能の向上 | P5 |
| 3-2 「いこい」と「にぎわい」の両立 | P6 |
| 3-3 沿道と連携したみどりの軸の強化 | P7 |
| 4. 今後の大通公園のあり方 | |
| 4-1 テーマ・コンセプト | P8 |
| 4-2 取組詳細 | P9 |
| 4-3 空間形成の考え方 | P12 |
| 5. 巻末資料 | |
| ● 座長コメント | P13 |
| ● 大通公園・中島公園あり方検討会 委員名簿 | P14 |
| ● 検討の過程 | P14 |
| ● オープンハウスの報告 | P15 |



1. 背景と目的

1-1 はじめに

大通公園のあり方について

札幌の都心は、約150年前に火防などを目的に道路として整備された大通を基軸にまちづくりが進められ、発展を続けてきました。その中で大通公園は、火防線から逍遙地（散策する場所）、市民のための活動空間（市民が過ごせる空間）、そして都市公園へと、時代に合わせて姿を変えながら変遷してきました。

現在、大通公園周辺では、札幌オリンピックが開催された昭和47年（1972年）頃に建設された建物が更新時期を迎えていることから、各所で建物更新の動きが活発化しています。大通公園も平成元年（1989年）から6年をかけて実施した再整備から約30年が経過し、施設全体の老朽化が進んでいます。また、イベントの種類や期間が増えるなど、公園全体の使われ方が変わってきているほか、時代の変化とともに人々の価値観やライフスタイルも変化し、公園に求められる役割そのものも変化してきています。

そのような背景の中、まちとともに姿を変えてきた大通公園について、これまでにはぐくまれてきた価値を継承しつつ、さらなる魅力と活力にあふれる空間へと発展させていくため、「大通公園のあり方」を策定します。



1-2 公園の概要

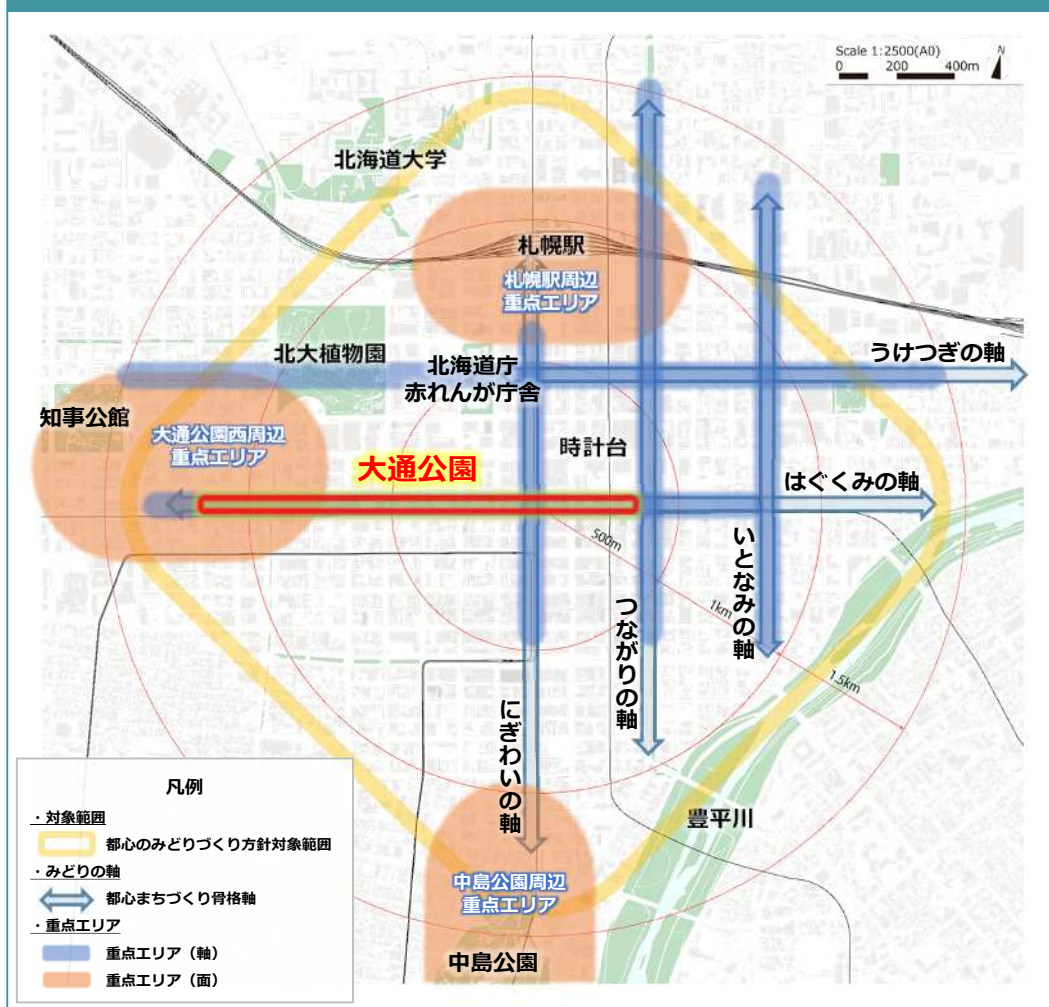
公園の概要

- 【所在】札幌市中央区大通西1～12丁目【面積】78,901㎡【種別】特殊公園
- 【変遷】
- | | |
|---------------|---------------------------------------|
| 明治4年 (1871年) | 開拓使により火防線等を目的に広幅員の道路を整備 |
| 明治44年 (1911年) | 西3～7丁目において本格的な公園整備 |
| 昭和25年 (1950年) | さっぽろ雪まつり初開催 |
| 昭和43年 (1968年) | 札幌市創建百年記念事業として西1・2丁目を公園化、西4丁目などで噴水を整備 |
| 昭和55年 (1980年) | 都市公園法を適用して大通公園として告示 |
| 平成元年 (1989年) | 大通公園リフレッシュ事業により再整備(~1994年完成) |



1-3 位置

位置図



公園の現況平面図



2. 検討にあたっての与条件整理

2-1 大通公園のあり方の検討経緯

■札幌市都心のみどりづくり方針の策定

- 札幌市は都心のまちづくりの更新期にあり、新型コロナウイルス感染症や地球温暖化等による社会ニーズの変化などを踏まえ、「札幌市都心のみどりづくり方針」を策定している。
- 大通公園のあり方の検討は、都心のみどりづくり方針の目標を実現するための主要事業のひとつとして位置付けられている。



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」(令和5年(2023年)10月)

- 大通重点エリアはみどりづくりの方向性として「都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり」を位置付けている。



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」(令和5年(2023年)10月)

- 施設の老朽化や公園周辺の建物更新などの機会を捉えて、大通公園においても、求められる役割や機能の変化に伴い、あり方検討を行うこととした。











出典：大通西4南地区市街地再開発組合

2-2 上位計画における位置づけ

- 大通公園は、みどりの骨格軸や、市民や来訪者のいこいやにぎわいの交流拠点として、都心の発展に向けさらなる魅力と機能の向上が求められている。

■大通のまちづくりの変遷

- 大通は明治4年(1871年)にまちづくりの基軸として設けられ、時代に合わせて姿を変えながら、今日に至る。

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 明治 | 火防などを目的として後志通(のちの大通)が整備され、これを基軸にまちづくりが進んだ。その後に逍遙地(散策する場所)としての整備もなされた。 |  |  |
| 大正 ~昭和初期 | 社会の近代化を背景に都市機能の集積が進んだ。 |  |  |
| 昭和中期 ~昭和後期 | 人口の増加に伴い急激な都市基盤整備が進んだ。 |  |  |
| 平成 ~令和・将来へ | 人口減少局面に差しかかる中、都市の成熟化が進展し、新たな局面へ。 |  |  |

■上位計画における大通の位置づけ

①第4次札幌市みどりの基本計画

●みどりの将来像(都市)

- 大通公園や中島公園といった大きな公園やみどりのオープンスペースが、市民や来訪者のいこいやにぎわいの交流拠点となり、札幌に活力をもたらしています。

②札幌市都心のみどりづくり方針

●大通重点エリアのみどりづくり

- 方向性『都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり』
- 視点『公園と沿道との一体感のあるみどり空間の創出による、みどりの骨格軸の強化』



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」(令和5年(2023年)10月)

③大通及びその周辺のみどりづくり方針 -札幌都心ははぐくみの軸強化方針-

- はぐくみの軸のみどりづくりの理念
- 象徴性の継承と新たな価値の創造

~150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”~

●大通公園エリアの強化の考え方

- はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ【西Aゾーン】
- 居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う都心の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ【西Bゾーン】
- 都心西側の回遊拠点を形成し美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ【西Cゾーン】

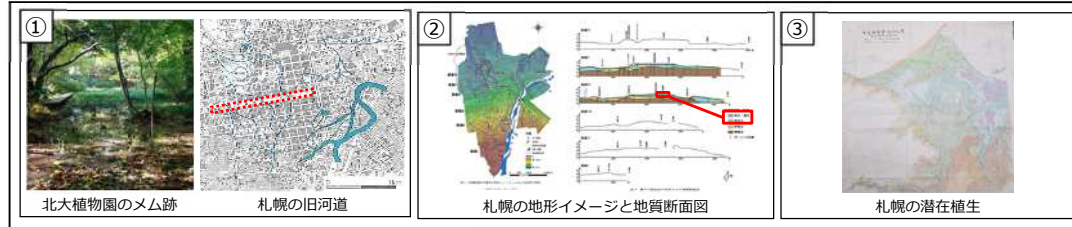
2. 検討にあたっての与条件整理

2-4 大通公園の変遷

【土地の記憶】

- ① 大通公園付近に見られる水の記憶「札幌の水脈とMEM（アイヌ語の湧き水）」：明治初期の地形図では、幾筋もの豊平川の旧河道が、扇状地の上をいろいろな方向に向かって流れていたことがわかる。豊平川の水の一部は、伏流水となって地下を流れ、地形や地質などの条件によって、扇状地扇端にあたるJR 札幌駅近辺などから湧き水（MEM） となって湧き出していた。
- ② 南から北へ緩やかな高低差をもつ扇状地地形の扇端に位置する大通公園の地中には、堆積層の下に隠れた豊かな微地形が存在する。
- ③ 大通公園周辺を含めて、市内中心部の潜在植生は、「ハルニレ林：ハルニレ - エゾイラクサ群集、エゾトリカブト群集」に該当する。

明治期



【大通公園の変遷】

明治期、まちの火防線としてつくられた大通公園は、その後、造園の権威であった長岡安平を東京市より招き整備計画を推進。逍遙地としての顔が整えられた。昭和期にかけては、市民のための活動空間となる都市公園として変貌した。平成期においては、快適で潤いのある街並み形成を図るため、街区・道路・公園の一体的なまちづくりを目指した。令和期においては、これまでの取組を推進し、次の時代につなげるため、「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌都心はぐくみの軸強化方針-」等を策定した。

明治～昭和期：火防線として整備され、その後に逍遙地→市民のための活動空間→都市公園として変遷

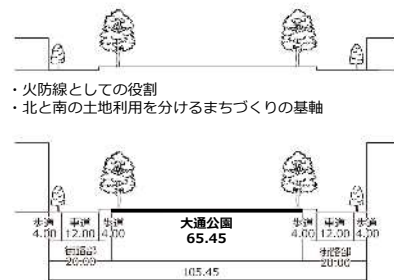
【設計思想】

長岡安平の設計思想 -自然的目づ、逍遙的な景観形成-

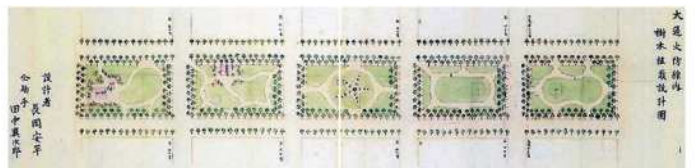
- ・ 自然地形を活かし人工を抑え、土地に適した樹木を植えてメリハリのある景観の移り変わりを楽しめる逍遙的景観
- ・ 自然を重視しつつ、美観と利便性にも配慮した設計手法



出典：札幌市文化資料室



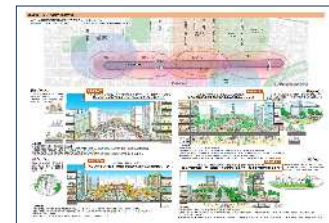
- ・ 火防線としての役割
- ・ 北と南の土地利用を分けるまちづくりの基軸
- ・ テレビ塔の完成
- ・ 地下鉄・地下街の完成
- ・ 市民のニーズを取り入れた公園（現在の姿へ）



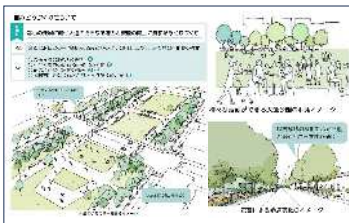
令和期：札幌都心はぐくみの軸強化方針、札幌市都心のみどりづくり方針

【重点的に進める取組の抜粋】

- 大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出：周辺の環境を活かしつつ市有地の活用を検討し、民間開発と連動しながら、象徴的な都市空間を創出する取組を推進。
- 道路空間の利活用の検討：市民・企業・行政などの協働による道路空間を活用した実証実験と必要な調査の実施。



出典：札幌市「札幌都心はぐくみの軸強化方針」(令和5年(2023年)10月)



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」(令和5年(2023年)10月)

平成期：象徴空間としての一体整備

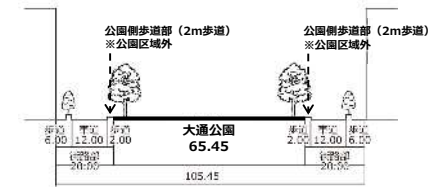
【設計思想】

テーマやゾーンを設定し、公園機能を高めるための整備

- ・ 札幌の都市軸として歴史的に形成された都市空間の価値の継承
- ・ みどりにあふれ水にふれることのできる都心のオアシスとしての機能の充実
- ・ 人々が集い交流し、多彩なイベントが行われる空間の形成
- ・ 都市と自然の融合を図り、緑・花・水・光などの演出
- ・ 札幌の都心景観にふさわしいデザインの採用



出典：さっぽろ観光写真ライブラリー



- ・ 大通公園再整備事業：札幌の象徴となる公園づくり
- ・ シンボルロード整備事業：沿道の歩道の幅が4m→6m、植栽台などファニチャー類の整備や電線類の地中化
- ・ 沿道建築物および屋外広告物に対する景観誘導の策定：沿道との関係を意識した基準策定



【今後の検討課題】

平成の再整備から30年が経過し、施設の老朽化や公園に対するニーズの変化、公園周辺の建物更新機運の高まり等により、以下の課題が浮かび上がってきた。

- ① 大通公園の魅力と機能の向上
- ② 「いこい」と「にぎわい」の両立
- ③ 沿道と連携したみどりの軸の強化

3. 大通公園の現状把握と方向性

3-1 大通公園の魅力と機能の向上

現状

■公園と沿道が連携したにぎわい空間

- ・都心の中のみどりの豊かさや大倉山・テレビ塔への眺望などは、市民から親しみ愛されてきた。中でも、立ち入ること・寝転がることができる芝生（lawn）や各丁目で展開される花壇は大通公園を特徴づける魅力であり、価値でもある。
- ・平成の再整備時から大きく育った樹木は、札幌を象徴するみどりの軸を強化する一方、公園⇄沿道間の見合いを難しくし、沿道との一体感を喪失させている。また、腐朽木・老木や鬱蒼とした樹林環境が一部に見られる。

■周辺施設や利用状況の変化

- ・大通公園周辺に保育施設が増えたことによる保育園児の利用増や都心居住者の増、イベント開催回数や期間の増といった**利用目的、利用時間の変化**が生じている。



■各種公園施設

- ・1989年の再整備当時からおよそ30年が経過し、**公園施設全体、特に電気・機械設備系の老朽化が深刻**である。このような状況に対し、**公園利用者からの改善ニーズ**もある。



西7丁目の水景施設



西11丁目の水景施設



繁茂した樹木



西9丁目の遊水路用設備の老朽化

■大通公園の維持管理及び運営

- ・指定管理制度の導入により、経費の縮減を図りつつ一定の管理水準を保っている。
- ・管理運営全般について、指定管理者の裁量による判断の機会が少なく、新たな取組や工夫があまりなされていない。
- ・都市公園において民間活力を導入するなど管理運営手法が多様化している中、大通公園は行政主導の従来の管理運営に頼っている部分がある。
- ・ボランティアや花壇推進組合と連携し官民連携による維持管理が行われてきたが、協力者数の減少に伴い花壇数が減少している。
- ・市民の意見や要望を取り入れたり、様々な担い手が参画できる機会が少ない。



主な課題

- みどりの軸を意識しながらも、沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討が必要である。また、腐朽木・老木への対応や鬱蒼とした樹林環境の改善も必要である。
- 老朽化施設全体に対するこれ以上の現状維持は限界を迎えている。公園利用者からの改善ニーズにも応えていく必要がある。
- 市民ニーズとして実利用に結び付いた改善が求められており、都心にふさわしい質の高い公園の設えが求められている。
- 管理運営体制やシステム・仕組みが硬直化しているため、柔軟な管理運営手法の検討や活用が求められている。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- ①みどりの軸を意識しながら、大通公園にふさわしい緑量の検討を行い、より望ましいみどり空間を創出する。
⇒ <都市の中心にあるみどり> <みどりと近接したまちなみ>
- ②時代やニーズの変化に合わせた公園施設の更新を行う。
⇒ <全項に共通>
- ③持続的な活動・より質の高い管理を見据えた**官民連携の更なる発展**を目指す。
⇒ <公共によるマネジメント> <民間事業者・市民団体の活力>

【維持・継承の方向性】

- ①札幌を象徴する景観である公園から大倉山・テレビ塔への眺望を確保する。
⇒ <連続した軸としての一体性>
- ②都心のオアシス機能を果たす公園の樹木・芝生・水景空間を継承する。
⇒ <都市の中心にあるみどり>
- ③戦後の公園整備から受け継ぎ、海外では観光コンテンツとなり得る**花壇やバラ園**を継承する。
⇒ <歴史性・地域性> <各街区の個性>
- ④**ボランティア・民間企業が参画しながらの整備や維持管理**を継承する。
⇒ <民間事業者・市民団体の活力>

⇒ <> : 今後の大通公園のあり方を考えていく上でのキーワード

3. 大通公園の現状把握と方向性

3-2 「いこい」と「にぎわい」の両立 現状

■ 大通公園の魅力

- 大通公園の利用者は、「美しい景観」「みどり」「水景空間」などを公園の魅力と認識している。
- 大通公園は1年を通してイベントが多く開催され、来場者の増加に伴い経済波及効果が大きく、公園におけるにぎわい機能を担っている。



出典：大通公園に関するインターネットアンケート調査結果（令和3年（2021年））

■ 日常利用とイベント利用に関する市民意見等

- 大通公園でのイベントを楽しみにしている市民も多一方で、公園本来の機能である休息や滞留といった日常利用を求める声もある。
- イベントの種類や期間、使用範囲が増えたことにより、日常利用できる期間や施設、エリアの制限が広がっている。

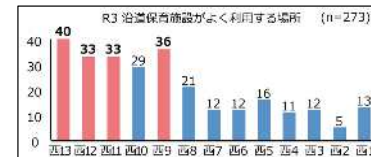
- 日常的に使いやすい公園になってほしい
- コミュニティ活動が日常的に行えるエリアが欲しい
- イベントで占有されている印象がある
- イベントがあっても日常利用したい
- 今後も色々なイベントをやってほしい
- 子どもが参加できるイベントがあるといい
- 四季折々のイベントを増やしてほしい
- 食べ物のイベントが多い。他のイベントも増やしてほしい



出典：札幌市「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌はくみの軸強化方針-オープンハウスアンケート調査」（令和4年（2022年））

■ 保育施設がよく利用するエリア

- 大通公園周辺に保育施設が増えたことに伴い、保育園児の利用が多く見られる。遊具が設置されている西9丁目より西側の利用が多いものの、全丁目で利用がなされている（芝生広場を中心とした利用が多い）。



出典：大通公園の利用、公園連続化に関するアンケート調査結果（令和3年（2021年））

■ イベント開催・設営時の公園使用状況

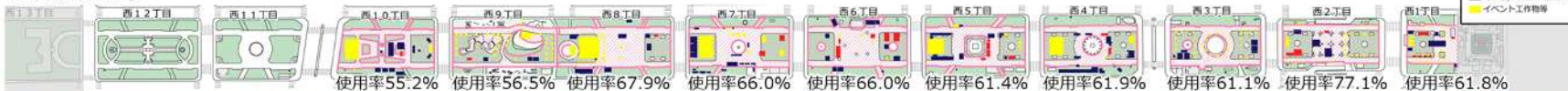
- イベントの開催期間のみならず、その準備（設営・撤去作業）にも多くの期間を要しているのが実情で、このことが日常利用の機会をさらに少なくする要因となっている。

イベント時の占用レイアウトと会場レイアウト（2022年度）

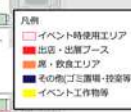
さっぽろ夏まつり



さっぽろ雪まつり



※使用率=イベント時使用エリア面積/丁目毎面積により算出（面積はCAD求積による）



主な課題

- イベント開催時においても一定程度の日常利用が可能となるような空間（設え）についての検討が必要である。
- イベントの準備期間短縮につながるような施設整備についての検討も必要である。
- イベントそのもののあり方や受入条件、時間的・エリア的な空間の有効活用等についてソフト面においても検討が必要である。
- 保育園児の利用を始めとする多様な日常利用のニーズを受け止めていくことが必要である。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- 遊び機能の充実など、周辺施設の変化や多様な日常利用のニーズを踏まえた空間の整備を検討する。
⇒ <生活の場（日常）>
- イベント開催時においても一定程度の日常利用が可能となるような空間や、設営・撤去期間の短縮に資する設備の整備を検討する。
⇒ <生活の場（日常）> <発信の場（非日常）>
- 大通公園にふさわしいイベントの開催やさらなる賑わいの創出に向け、イベントのルール作りや、質の向上に向けたマネジメント体制の構築について検討する。
⇒ <発信の場（非日常）> <公共によるマネジメント>
- 大通公園ならではの集客力や発信力を捉えた先進的な取組や社会実験の場としての活用も検討する。
⇒ <将来性・国際性>

【維持・継承の方向性】

- 都心のオアシス機能を果たす公園の樹木・芝生・水景空間を継承する。（再掲）
⇒ <都市の中心にあるみどり>
- みどりや花が豊かな空間で歩く・休む・遊ぶ・食べるといった日常利用の場を確保する。
⇒ <生活の場（日常）>
- 市民に長く親しまれ、楽しまれてきたイベントの開催を継続する。
⇒ <発信の場（非日常）>

⇒ <>：今後の大通公園のあり方を考えていく上でのキーワード

3. 大通公園の現状把握と方向性

3-3 沿道と連続したみどりの軸の強化

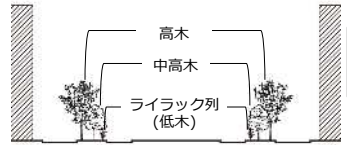
現状

■公園と沿道が連携したにぎわい空間

- 平成の再整備時から大きく育った樹木は、札幌を象徴するみどりの軸を強化する一方、公園⇄沿道間の見合いを難しくし、沿道との一体感を喪失させている。また、腐朽木・老木や鬱蒼とした樹林環境が一部に見られる。

【沿道植栽の変化】

・平成の再整備時



・現況



■地下鉄などからのアクセス性を高める地下空間との連携

- 移動の軸としても大通公園は重要であるが、周辺の歩道（地下空間を含む）はバリアフリー化されており、公共交通機関も含めた公園へのアクセス環境は一定の整備がされている。

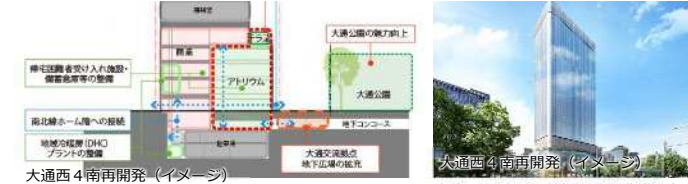


■公園～道路～民間敷地が一体となったみどりの空間

- 現状の大通公園は、日常的な駐輪や路上喫煙、公園施設の配置状況、イベント時のプレハブ設置、樹木の成長などにより、沿道とのつながりが薄れている。
- 周辺の民有地においては、まとまったみどりが少ない。
- 周辺では民間の建物更新の機運が高まっており、大通公園のみどりを意識した開発の動きも見られる。

【周辺開発動向事例】

・大通西4南地区第一種市街地再開発事業



・ザロイヤルパークキャンパス札幌大通公園



■公園側敷地と隣接した歩道部空間

- 公園側歩道部（2m歩道）は、狭さや土舗装による歩きにくさ、駐輪、道路施設などがあり、歩行空間としてあまり利用されていない。

【公園側歩道部の夏季・冬季の利用状況】

・夏季



・冬季



主な課題

- 近年の沿道施設は、大通公園のみどりを意識した開発も見られるが、全体として沿道のみどりの量は少なく、みどりによる一体的な空間創出に課題がある。
- みどりの軸を意識しながらも、沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討が必要である。また、腐朽木・老木への対応や鬱蒼とした樹林環境の改善も必要である。
- 大通公園周辺の地下空間（通行機能）は充足しているものの、地下空間から大通公園が認知しづらい状況にある。
- 大通公園と沿道の空間的な一体感に欠け、利活用及びにぎわいの連続性が不足している。
- 公園側歩道部（2m歩道）は歩行空間とも緑化空間とも言えない中途半端な空間になってしまっており、沿道に対する裏側感も生じさせている。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- 大通公園にふさわしい緑量の検討を行い、より望ましいみどり空間を創出する。
⇒ <都市の中心にあるみどり> <みどりと近接したまちなみ>
- 沿道との一体感を醸成を意識した公園側歩道部（2m歩道）のあり方について検討を行う。
⇒ <みどりと近接したまちなみ>
- 地下空間から大通公園が認知しづらい状況の改善や、周辺のまちなみへの回遊性向上により、街区・道路（地下空間を含む）・公園がさらに一体的な空間となるように検討を行う。
⇒ <みどりと近接したまちなみ>
- 大通公園周辺での建物更新の機会を捉え、大通公園に対する公共貢献や大通公園を意識した計画の検討がなされるよう働き掛けを行っていく。
⇒ <民間事業者・市民団体の活力>

【維持・継承の方向性】

- 東西に連なる札幌の象徴的なみどりの軸を継承する。
⇒ <都市の中心にあるみどり> <連続した軸としての一体性>
- バリアフリー環境を維持・向上させる（ユニバーサルデザインの推進）。
⇒ <生活の場（日常）>



⇒ <> : 今後の大通公園のあり方を考えていく上でのキーワード

4. 今後の大通公園のあり方

4-1 テーマ・コンセプト

大通公園のあり方：**Inclusive “Green” Corridor** インクルーシブ グリーン コリドー ～誰もが思い思いに過ごせるみどりの空間～

防火帯から市民の憩いの場となり、公園・道路・沿道が一体となった空間形成を目指している背景を踏まえ、今後もみどり豊かな空間であるとともに、多様な価値観を受け入れ、誰もが互いに尊重しあうこれからの時代にふさわしい象徴空間を目指す

01-1 歴史性・地域性

- ・ みどり豊かなこの空間の継承
- ・ 市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- ・ 都心のオアシスである水景空間の継承
- ・ 歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承



02-1 生活の場（日常）

- ・ 四季を通じて、日常的に大人から子供までが思い思いに過ごせる空間の創出
- ・ 年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備



03-1 都市の中心にあるみどり

- ・ 中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間を維持・向上
- ・ 芝生や花壇に一層親しむことのできる環境やみどりを身近に感じられる機会を創出
- ・ 都心のオアシスである水景空間の更新



04-1 連続した軸としての一体性

- ・ 大通公園の特徴や成り立ちを踏まえた一体性のある景観形成
- ・ 大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや回遊性を意識した空間形成
- ・ 街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討



05-1 公共によるマネジメント

- ・ 持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- ・ 公園の周辺ならではの開発インセンティブの促進
- ・ 公園利用ルールの検討



01

過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承するとともに、これからの時代にふさわしい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

02

日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

03

都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出するとともに、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

04

一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つとともに、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

05

公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

01-2 将来性・国際性

- ・ 環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- ・ 国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- ・ デジタル機能を活用した利用者サービスの向上や管理運営の効率化



02-2 発信の場（非日常）

- ・ 多様な日常利用とイベント利用の両立を図る最適な空間配置の検討
- ・ 札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討



03-2 みどりと近接したまちなみ

- ・ 都心部の回遊拠点として、まちとつながり、アクセシビリティ・回遊性を高める公園環境の整備
- ・ 大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する公園と沿道との一体感を高める空間整備



定禅寺通り（仙台市）

04-2 各街区の個性

- ・ 丁目ごとの変化が感じられ、歩きたくなる空間の形成
- ・ 沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- ・ 景観に配慮した施設の整備



05-2 民間事業者・市民団体の活力

- ・ 民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- ・ 都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討



大通西4南再開発（イメージ）

4. 今後の大通公園のあり方

4-2 取組詳細

01 過去と未来を重ね合わせる

01-1 歴史性・地域性

- ・みどり豊かなこの空間の継承
- ・市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- ・都心のオアシスである水景空間の継承
- ・歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承するとともに、これからの時代にふさわしい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

01-2 将来性・国際性

- ・環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- ・国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- ・デジタル機能を活用した利用者サービスの上や管理運営の効率化

02 日常と非日常を重ね合わせる

02-1 生活の場（日常）

- ・四季を通じて、日常的に大人から子供までが思い思いに過ごせる空間の創出
- ・年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備


日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

02-2 発信の場（非日常）

- ・多様な日常利用とイベント利用の両立を図る最適な空間配置の検討
- ・札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討

01-A

鬱蒼とした樹林環境の改善や健全性が低下した樹木の更新などを行い、長く市民に親しまれてきたみどり豊かなこの空間を維持・継承していく。



01-D

雨水貯留・浸透機能が期待できる植栽基盤や舗装基盤などの導入を検討し、公園が持つグリーンインフラとしての機能を充実させ、持続可能な都市を支える象徴的な空間とする。



02-A

ブラック・スライド・マントラ（西8丁目）やクジラの山（滑り台が併設された築山）、遊水路のように、景観への配慮と実用性が兼ね備わった誰もが楽しむことができる遊びやこの機能の充実を検討する。



02-D

イベントが盛んに行われている西5・6・7丁目において、芝生と舗装のバランスの再編を検討し、イベントを開催しやすい空間を実現する。



01-B

樹木や芝生からなるみどりの軸とその先に見える山並みやテレビ塔への眺望を維持・継承していく。



01-E

二次元コードを活用した多言語対応の公園案内や施設の解説など、ICTを活用することで、公園利用者の利便性の向上と管理運営の効率化を図る。



02-B

多様な過ごし方を選択できるよう、樹林帯内へのテーブル・ベンチの配置や、ほど良い高低差の創出などを検討する。



02-E

設営撤去期間の短縮を目的とした電気・給排水設備の整備など、イベントの受け入れ施設の充実を検討する。



01-C

野外彫刻などは、大通公園内で維持・継承していくことを基本とするが、樹木などの陰に隠れ、十分に認知されていない施設も存在する。こうした施設については、存在感や魅力を高めていく手法を検討する。



01-F

大通公園の集客力や発信力を活かし、先進的な取組や社会実験を行うことで、新たな価値や情報を発信し共有する場としていく。



02-C

散策や雪とのふれあいといった野外活動などといった札幌の四季を感じ、体験することができるような空間整備とコンテンツを検討する。



02-F

様々な距離感でイベントとの関わりを選択できるように施設計画により、公園利用者の快適性の向上を図る。



4. 今後の大通公園のあり方

4-2 取組詳細

03

都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

03-1 都市の中心にあるみどり

- ・中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間を維持・向上
- ・芝生や花壇に一層親しむことのできる環境やみどりを身近に感じられる機会を創出
- ・都心のオアシスである水景空間の更新

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出するとともに、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

03-2 みどりと近接したまちなみ

- ・都心部の回遊拠点として、まちとつながり、アクセス性・回遊性を高める公園環境の整備
- ・大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する公園と沿道との一体感を高める空間整備

04

一体性と個性を重ね合わせる

04-1 連続した軸としての一体性

- ・大通公園の特徴や成り立ちを踏まえた一体性のある景観形成
- ・大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや回遊性を意識した空間形成
- ・街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つとともに、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

04-2 各街区の個性

- ・丁目ごとの変化が感じられ、歩きたくなる空間の形成
- ・沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- ・景観に配慮した施設の整備

03-A

現状のみどりをそのまま維持するのではなく、周辺街区との調和といった大通公園にふさわしい緑量を検討し、適切な樹木の間引きや下枝の整理等を行っていく。



03-D

公園に隣接した2mの歩道部分については、良好な通行空間を確保した上で、周辺街区との一体感を醸成する設えを検討する。また、これに隣接する車道との一体的な利活用についても検討する。



04-A

樹木や芝生からなるみどりの軸や、その先に見える山並みやテレビ塔への眺望を維持・継承するとともに、サインや照明灯などのデザインを統一することで、一体性のある景観を形成する。



04-D

歴史的・文化的な背景や今後のまちづくりの方向性を踏まえながら、各丁目の空間コンセプトを検討する。



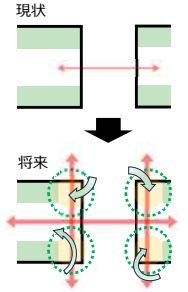
03-B

各丁目に均一に配置されている芝生や花壇については、より注目され親しまれるものとなるよう、配置や形状、植栽基盤等の見直しを行うとともに、良好な状態を維持する仕組みについても検討する。



03-E

街区の角部に人の流れを受け止める広場空間を設けたり、樹木の下枝整理による見通しの改善を図ることで、回遊性とアクセス性の向上を図る。



04-B

公園内にとどまらず、札幌市資料館（西13丁目）や時計台（西2丁目）、創成東地区への回遊性やみどりの一体性も考慮した空間整備を検討する。



04-E

まちの景観との調和に配慮しつつ、個性を感じられる水景・遊び場・ファニチャー等の施設の配置やデザインを検討する。



03-C

都心のオアシスである水景施設については、現状の公園利用や持続可能な管理運営にも配慮し、施設数や配置の見直しを行いながら、新たな形で水に触れ合えたり、水との距離感が選択可能な設えを検討する。



03-F

大通公園沿道の建物更新機会を捉え、連携して公園の整備を行うことで、公園と周辺街区との一体感を醸成する。



大通西4南再開発（イメージ）
出典：大通西4南地区市街地再開発組合

04-C

みどり・花が豊かな空間で、歩く・休む・遊ぶ・食べるなどの多様な過ごし方が選択できるように、機能的な施設配置を行い、利活用方針を検討する。



04-F

沿道の土地利用や丁目ごとの公園利用状況を踏まえ、芝生・樹木・花壇・舗装・水景施設などの構成に変化を持たせ、歩きたくなる空間整備を行う。



4. 今後の大通公園のあり方

4-2 取組詳細

05 公共と民間の強みを重ね合わせる

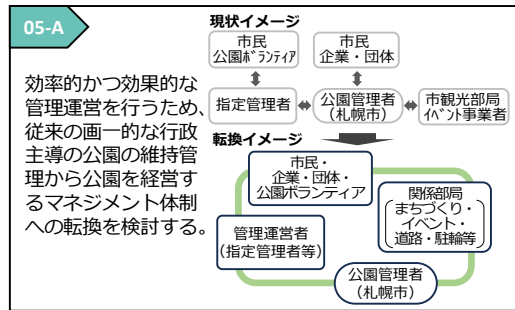
05-1 公共によるマネジメント

- ・ 持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- ・ 公園の周辺ならではの開発インセンティブの促進
- ・ 公園利用ルールの検討

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

05-2 民間事業者・市民団体の活力

- ・ 民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- ・ 都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討



◆ 大通公園の活動イメージ



- ・ 先に進みたくするようなエリアの変化や移動の選択性がある
- ・ 各丁目の出入口が感じられる
- ・ 1.5km全体が一体と感じられる共通のデザイン要素がある



- ・ 道路の音から離れた場所が見つかる
- ・ 身体を使える地形のような場所がある
- ・ 身体を使った子ども・大人の遊び場になる



- ・ イベントへの参加度合いを選択できる
- ・ 日常的に過ごす時間で人との距離に選択性がある(ベンチの向き、サイズ等)
- ・ 樹木、水のような自然との距離に選択性がある



- ・ 少し高い場所/低い場所がある
- ・ 色々な姿勢で過ごせる
- ・ 公園を外から眺められる場所がある(木立の密度や視線の抜け)
- ・ 花の場所、緑の場所、映える場所のメリハリがある



- ・ 使いやすさを感じられる細やかな配慮がある
- ・ 公園と道路・まちなみとのつながりへの配慮がある
- ・ ファニチャー、ロゴ、ユニフォームなど公園全体としての統一性を感じられるきっかけがある



- ・ 本物の文化(衣食住・心技体)に触れられる
- ・ 多義的な過ごし方(遊び場、音楽、運動等)に触れられる
- ・ 社会実験などの新たな取組に触れられる



- ・ 冬季や夜間でも楽しめる場所がある(ライティング等)
- ・ 時間毎の変化が感じられる(時報のような仕掛けなど)
- ・ 植物の変化で四季を感じられる
- ・ 雨でも長く過ごせる場所がある
- ・ 冬のソリ移動が楽しめる



- ・ 夏場のミストなどにより環境の良さを感じられる
- ・ コンポストなど環境配慮の取組を知る環境教育の場となっている
- ・ 参加できる環境活動がある
- ・ 災害時にも安心できる備えが感じられる

4. 今後の大通公園のあり方

4-3 空間形成の考え方

テーマ・コンセプトや取組詳細 (P.8~P.11) を踏まえ、エリアごとの考え方や想定している整備内容を整理した。

西11-12丁目 札幌の歴史と文化を伝承するエリア

- 札幌の文化、花とみどりを活かし、多様な交流をはぐくむエリア
- 姉妹都市施設、西13丁目の資料館といった札幌の歴史を体感できるエリア
- 芝生や花壇、ガーデニングといった大通公園の文化を体感できるエリア

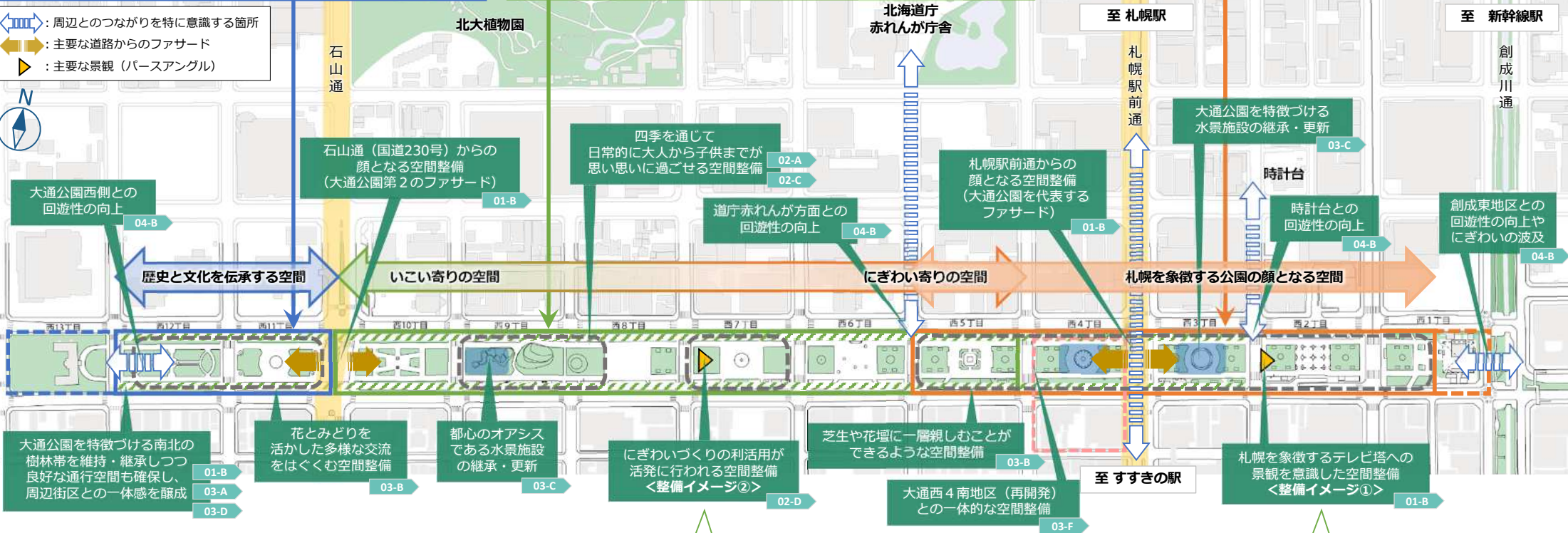
西5-10丁目 多様なニーズに対応した札幌ならではの活動を体験できるエリア

- いこいの充実を図ることにより、多様なライフスタイルと都市型イベントの共存を図るエリア
- イベントの質的向上を図ることで札幌を代表するイベントを体験できるエリア
- 多様な遊び・休息・滞留機能の充実、冬でも遊べる仕掛けを取り入れることで札幌ならではの公園利用を体験できるエリア

西1-5丁目 札幌を象徴する公園の顔となるエリア

- 札幌都心の骨格軸である札幌駅前通と大通が交差し、札幌を象徴する施設・活動が集積するエリア
- 大通公園を特徴づけるみどりや水景施設のほか、テレビ塔や大倉山への眺望により、札幌らしさを体感できるエリア
- 沿道と一体となったにぎわいが創出され、多くの来街者の滞留や交流が生まれるエリア

- 周辺とのつながりを特に意識する箇所
- 主要な道路からのファサード
- 主要な景観 (パースアングル)



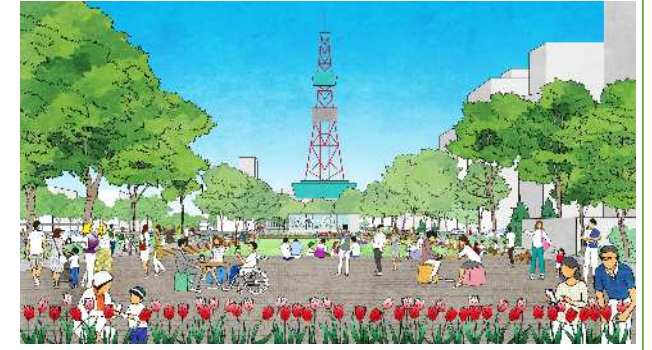
<整備イメージ②> 西7丁目から東方向

- 【想定整備内容】
- 様々なイベント開催を想定した舗装広場 (イベント施設の設定・撤去期間の短縮につながるような、給排水・電気設備等の設置を含む)
 - バックヤード機能も兼ねたステージを園路沿いに配置
 - 沿道側 (樹林帯) への良好な通行空間



<整備イメージ①> 西2丁目から東方向

- 【想定整備内容】
- テレビ塔への見通しを確保した空間
 - 思い思いに過ごすことができる設えを備えたまとまりのある芝生広場と舗装広場
 - 市民に生まれ愛されてきた花壇を現在と同規模で適所に配置



※現時点で想定している整備内容のイメージであり、今後の検討により変更になる可能性があります。

5. 巻末資料

■ 座長コメント

「大通公園のあり方」の検討を終えて

札幌市の中心部に位置し、札幌の“顔”でもある大通公園は、これまでの歴史を継承し、どのようにあることが望ましいのか、将来に向けてどのような方向性で取組を進めていくことがふさわしいのか、各分野の専門家などとともに、「大通公園のあり方」を考える機会をいただきました。

ここに至った背景としては、平成初期に行われた再整備工事業から約30年が経過し、公園施設が全体的に老朽化してきていること、イベントの種類や期間が増えるなど、公園全体の使われ方が変わってきていること、札幌オリンピックが開催された昭和47年（1972年）頃に建設された建物が更新時期を迎え、大通公園周辺の街並みが変わりつつあることなどがあります。また、新型コロナウイルス感染症を契機に、公園をはじめとする屋外のオープンスペースの重要性が再認識されているほか、都市公園においては、新たな価値の創出や社会課題の解決に向けたまちづくりの場とする動きなども出てきております。

今回の大通公園・中島公園あり方検討会では、令和5年（2023年）10月に札幌市が策定した「札幌市都心のみどりづくり方針」や「大通及びその周辺のまちづくり方針 -札幌都心はぐくみの軸強化方針-」を踏まえ、『大通公園の魅力と機能の向上』、『「いこい」と「にぎわい」の両立』、『沿道と連携したみどりの軸の強化』という3つの検討課題から議論をスタートさせました。

各委員からは、大通公園を含めた大通全体がこれまでに培ってきた歴史性や地域性、都心全体のまちづくりにおける大通の位置付けや将来展望、大通公園そのものの現状や課題を踏まえた更新・発展の方向性など、様々な観点から多くの意見を寄せていただきました。座長の立場で関わらせていただいた中で、特に印象深かったこととしては、既存の公園区域に捉われない幅広い視点や中長期的な時間軸も見据えたまちのあるべき姿から大通公園はいかにあるべきかという議論が中心にあったことです。検討会を重ねるごとに議論はより幅広く、そして深みを増していきました。議論の内容は多岐にわたりましたが、その根底には、大通公園が札幌というまちにとって絶対に欠かすことのできない貴重なオープンスペースであるという共通認識が確実にありました。

大通公園は言わずと知れた観光名所でもあり、四季を通じて多くのイベントも開催されています。一方で、大通公園は都市公園でもあり、散歩や休息、花木の鑑賞といった本来のオープンスペースとしての機能も必要な場所です。議論を重ねていく中、その難しさの主な要因は、こういった相反する要素が大通公園にはいくつもあり、これらをどのように整理していくべきかということにあることが、検討会の後半で浮かび上がってきました。具体例を挙げると、「いこい（日常利用）」か「にぎわい（イベント）」か、軸（12丁画全体）としての一体性が街区ごとの個性か、大通公園は内向きが良いかまちに開かれた方が良いかといったことです。ここをさらに深掘りしていくと、大通公園が担うべき役割は白か黒かの一側面ではなく、多様な役割を担っていくべきであること、一見して相反する要素であったとしても、施設の配置や運用上の工夫を行うことで、うまく調和や融合を図れる可能性があることが導き出されたところでした。

このような議論の積み重ねの結果、今回のあり方では、テーマを「Inclusive “Green” Corridor ～誰もが思い思いに過ごせるみどりの空間～」と掲げ、コンセプトとして「過去と未来」「日常と非日常」「都心のみどりとまちなみ」「一体性と個性」「公共と民間の強み」の「重ね合わせ」を設定しました。

札幌市の中心部に位置し、札幌の“顔”でもある大通公園だからこそ、ゾーニングによる単純な住み分けとするのではなく、同一空間の中で多様な役割を担えるよう「重ね合わせ」により両義性（1つの事柄が相反する2つの意味を持ち、ともに成り立つこと）を実現させていくことが適切だという答えに辿り着きました。

その一方で、議論を重ねても検討会の中では方向性や答えを見出し切れなかった検討事項もいくつか残りました。例えば、大通公園と隣接する道路や街区（沿道）の在りよう、大通公園やその周辺の回遊性の向上、大通公園にふさわしいイベントの姿、大通公園にふさわしい・ふさわしくない使われ方、望ましい管理運営手法などです。これらの検討には、中長期的な時間軸を見据えた議論や関係者との十分な協議が必要なることを改めて認識させられました。

今回のあり方は、今後の来るべき整備に向けた基本構想に相当するものとして、公園管理者（札幌市建設局みどりの推進部）が策定・公表するものであるため、最終的には現状の公園区域を基本とした内容でまとめる形となりましたが、今後の大通公園の理想像の追及は、都心のまちづくりといった現状の公園区域外の状況も俯瞰しながら行うことが重要と考えます。検討会の中で積み残しとなった上記の検討事項については、今後、公園管理者が中心となり、関係者と前向きな議論を重ね、実証実験などの試行的な手法も取り入れながら、検討を進めていただきたいと思います。また、これらの検討過程において、市民への情報発信も適宜行い、市民の関心を高め、市民の意見を積極的に取り入れていただくことも望みます。

先人たちから引き継いだ大切な資産としての大通公園の価値や都心のまちづくりにおける重要性を公園管理者のみならず誰もが再認識し、今回のあり方を踏まえた検討の先に、世界にも誇れる象徴空間となることを大いに期待します。

令和7年（2025年）3月
大通公園・中島公園あり方検討会

座長 愛甲 哲也



5. 巻末資料

■ 大通公園・中島公園あり方検討会 委員名簿

敬称略

| | 氏名 | 役職 | プロフィール |
|-------|--|--|---|
| 学識経験者 | あいごう てつや 愛甲 哲也 | 北海道大学大学院 農学研究院 教授 | 専門：造園 公職：第22次緑の審議会会長、環境審議会委員 |
| | いけのうえ しんいち 池ノ上 真一 | 北海商科大学 観光産業学科 教授 | 専門：観光まちづくり 公職：「札幌市時計台」及び「札幌市旧永山武四郎邸及び札幌市旧三菱鉱業寮」指定管理者選定委員会委員 |
| | おざさ たかお 小篠 隆生 | 一般社団法人新渡戸遠友り ピングラボ 理事長 | 専門：都市計画、建築計画 公職：第20次緑の審議会委員、北海道大学大学院工学研究院非常勤講師 |
| | しいの あきお 椎野 亜紀夫 | 札幌市立大学 デザイン学部 教授/デザイン学部長 | 専門：都市公園、遊び場 公職：札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会委員、都市計画審議会委員 |
| | たかの しんえい 高野 伸栄 | 北海道大学大学院 工学研究院 土木工学部門 教授 | 専門：交通計画、都市地域計画、建設マネジメント 公職：札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会委員、札幌市高齢者健康寿命延伸検討委員会委員 |
| | もり ともち 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | 専門：都市計画、景観 公職：札幌市景観審議会委員、札幌市中高層建築物紛争調整委員会委員、第23次緑の審議会委員 |
| | よしおか あきこ 吉岡 亜希子 | 北海道文教大学 人間科学部 地域未来学科 教授 | 専門：社会教育、子育て支援 公職：札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会委員、札幌市市民まちづくり活動促進テーブル委員 |
| 民間 | いりさわ たくや 入澤 拓也 | 一般社団法人北海道IT推進協会 会長 エコモット株式会社 代表取締役 | 専門：IT・情報 公職：札幌市CDO補佐官、中小企業振興審議会委員、さつぼろ未来創生プラン推進有識者会議委員 |
| | りゅう こうざぶろう 笠 康三郎 | 有限会社緑花計画 代表取締役 | 専門：都市基盤の緑地計画・設計、自然環境の保全・再生 公職：札幌市大通花壇コンクール審査員、北海道大学農学部非常勤講師 |
| 行政 | いしかわ ひろたか 石川 啓貴 | 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 公園利用推進官 | |
| | ただ たかし 玉田 隆志 令和5年11月～令和6年2月 | 国土交通省 北海道開発局 事業振興部 都市住宅課 都市事業管理官 | |
| | ささき ひろかず 佐々木 博一 令和6年2月～令和6年4月 かさまつ しゅうご 笠松 周悟 令和6年4月～ | | |

■ 検討の過程

□：あり方検討会 ○：見学会・オープンハウス等

| 年 | 月 | 札幌市緑の審議会 | 大通公園・中島公園あり方検討会 |
|-----------------|-----|---------------------------|--|
| 令和5年 (2023年) | 9月 | ■第94回(9/19) ・検討開始の報告 | |
| | 11月 | | □第1回(11/2) ・大通公園：大通公園の魅力と機能の向上について ・中島公園：今あるみどりや芸術・文化を磨き高めることについて |
| | 12月 | | □第2回(12/18) ・大通公園：「いこい」と「にぎわい」の両立について ・中島公園：新たな機能により魅力を向上することについて |
| 令和6年 (2024年) | 3月 | | □第3回(3/18) ・大通公園：沿道と連携したみどりの軸の強化について ・中島公園：周辺エリアも含めて活性化させることについて |
| | 5月 | ■第95回(5/14) ・検討状況の中間報告 | |
| | 6月 | | ○中島公園 現場見学会(6/17) |
| | 7月 | | □第4回(7/11) ・大通公園：大通公園のあり方の検討について ✓誰もが利用しやすい公園づくり ✓大通公園のあり方(骨子案) ・中島公園：中島公園の現場視察を踏まえた検討について |
| | 8月 | | ○大通公園のあり方検討に係るオープンハウス(8/2～8/3) |
| | 10月 | | □第5回(10/21) ・大通公園：大通公園のあり方(素案)について ・中島公園：中島公園魅力アッププラン(素案)について |
| 令和7年 (2025年) | 1月 | | □第6回(1/27) ・大通公園：大通公園のあり方(案)について ・中島公園：中島公園未来への魅力継承プラン(案)について |
| | 3月 | ■第97回(3/13) ・案の報告 | |

■ オープンハウスの報告

オープンハウスの開催概要について

| | |
|------|------------------------------------|
| 日時 | 2024年8月2日(金) / 3日(土) 11:00~18:00 |
| 場所 | 札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)内 憩いの空間北1東 |
| 参加人数 | 521名(8月2日(金): 252名 / 3日(土): 269名) |
| 実施内容 | パネル・資料の展示、職員による説明 シール投票、自由意見の記入 |



その他自由意見について ※寄せられた自由意見の中から抜粋・要約

(1) 公園のあり方

- 北海道民が自分の土地の歴史をもっと知ることができる場所にして欲しい。
- 子供から大人まで誰からも興味を持たれる公園にして欲しい。
- 身体が不自由な方々でも公園全体が移動しやすくなるようにして欲しい。
- フランスの公園のように芝生で寝られるような憩いの場にして欲しい。
- 雨や雪の日でも走ることができて、天気を気にせず休めるスペースもあるとうれしい。
- カラスに怯えずに過ごせるようにして欲しい。
- 水辺の空間がどこかがあると更に良い公園になると思う。
- ルーブルのピラミッドみたいに地下とつながって欲しい。
- ボランティアが今以上に増えるよう進めて欲しい。

(2) 施設整備

- 道路をなくしたら公園をもっと大きく使える。
- 現状維持→施設更新で良い。どちらかという活用をもっと探るべき。
- 自転車で公園に遊びに行きやすい整備をして欲しい。
- 「いこいの空間」の継承を。8丁目のブラック・スライド・マントラはこれからも残して欲しい。

(3) 日常利用

- 幼児～高学年までの子どもが遊べる遊具・雪遊び環境が欲しい。
- 子供たちが自由に遊べて、親同士がコミュニケーションを取れるような場所にして欲しい。
- 市民がみどりや花を眺めて過ごせる空間をもっと作って欲しい。
- イベントの無い普通の公園をもっとたくさん楽しみたい。
- スキマ時間にスポーツを楽しみたい。フットサル、バスケ、パークゴルフなど。

(4) 非日常

- おしゃれなイベントをやって欲しい。
- 大人向けのイベントが多すぎる。飲食ばかりでつまらない。
- イベントはあっても良いが、増やし過ぎない欲しい。
- 目玉のイベントとして、1日2回ぐらいライティングショーなどが見えたら良い。

(5) 自然環境

- 大通公園は、緑の回廊として大切。様々な樹木もあり、野鳥も多い。
- みどりや花のきれいな現在の大通公園が魅力的。
- ピオトープを設置して欲しい。
- 札幌のオアシスであるようにして欲しい。

シール投票の結果について

大通公園のあり方案骨子

大通公園のあり方: New Inclusive* Odori Park

大通公園は、歴史から価値、未来のいこいの場として変遷し、進化し続けてきた社会ニーズを軸に改めて考える場として今日にまわります。札幌からの命を込め分けるまちづくりの原点から、街並・緑・公園が一体となる空間を目指し、社会を多様化・包容化する中で、多様な価値観を受け入れ、互いに尊重し合う、これからの時代に相応しい、誰もが憩える空間とします。

01. 過去と未来を重ね合わせる

- 01-1 歴史性・地域性: 222
- 01-2 継承性・国際性: 124

02. 日常と非日常を重ね合わせる

- 02-1 生活の場(日常): 294
- 02-2 憩いの場(非日常): 199

03. 都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

- 03-1 都心の中心にあるみどり: 224
- 03-2 みどりと連続したまちなみ: 131

04. 一体性と個性を重ね合わせる

- 04-1 連続した緑としての一体性: 131
- 04-2 各街区の個性: 122

05. 公共と民間の強みを重ね合わせる

- 05-1 公共によるマネジメント: 72
- 05-2 民間事業者・市民団体の活力: 112

あなたは、どのように過ごしたいですか？

◆多様な体験が生まれる場づくり

- 1 1.5kmの移動を楽しむ: 145
- 2 五感に刺激を受けられる: 165
- 3 広域が行き届いていることが感じられる: 142
- 4 興味が広がるきっかけを持てる: 235

- 5 距離感の遠近性が広がる: 140
- 6 過ごし方の違いが感じられる: 188
- 7 時間・季節の変化が感じられる: 336
- 8 環境の良さを感じられる: 269